

ペルー

ペルー共和国

人口：約3,297万人 ※1

首都：リマ

一人当たりGDP：6,127ドル※1

初等教育終了率：95%※2

若者（15～24歳）の識字率：99%※2

5歳未満死亡率：13人/1000人※2

栄養不良（就学前の子ども）：発育阻害11%※2

※1 外務省HPより ※2 世界子供白書2021UNICEF



「息子たちは実に楽しそうに登校しています。子どもたちの笑顔が何よりの<希望>ですね」

双子の息子をもつリアン・ソトさんより

希望の学び舎を地震被災地の子どもたちに



2007年8月15日、ペルー沿岸を震源としたマグニチュード7.9の地震が発生し、当地では595名の死者、2291名の負傷者、5万8581戸の家屋破壊という被害に見舞われました。それから2年経った2009年になっても、元の姿を取り戻していない被災地を目の当たりにしたADRAは、イカ州の一角を国から譲り受け、被災者のなかで、最も弱い立場にある貧困世帯に学校を建築することを決めました。

崩壊した瓦礫の撤去、町を再建する現地の方の努力を目にしなが、住居を失った多くの人々や子どもたちの学習環境が整っていない様子に心を痛めたのです。加えて、教育施設復興のニーズが高いことを理解し、学びの舎こそが、住民の光明になると判断しました。

2010年4月26日、ADRAはペルー南部イカ州ビスコ郡サン・クレメンテ地区に、未就学児と小学生が通う学校を完成させました。地震の被害に遭った方々が当地に集い、ポジティブに人生を再スタートさせることを祈りながら建設しました。我々はこのプロジェクトを「ハッピースクール」と名付けました。

同校に通う児童たちは図書室が大好きで、誰もが目を輝かせて本を手に入れます。クレメンテには本屋も図書館もなく、リーディングの喜びを一度も味わったことのない子どもたちばかりでした。

当時、17歳にして小学5年生だったヘラルディン・ヴィセンテさんは言いました。

「私はずっと学校に行くことができませんでした。家が貧しかったので、働かねばならなかったのです。以前、少しだけ通う機会があったのですが、とても遠く、仕事との両立ができませんでした。私の住んでいるこの町に新しい学校が建つことを知って、『今度こそ、勉強ができる!』と思いました。本当に嬉しかったです。今は毎日一生懸命に学んでいます」

双子の息子さんを同校に通わせていた、当時40歳のリアン・ソトさんも、母親としての喜びを噛みしめながら語りました。

「息子たちは実に楽しそうに登校しています。子どもたちの笑顔が何よりの<希望>ですね。ようやく夫にも仕事が見つかったし、家族で力を合わせて、この場所で仲良く暮らしていきますよ」

子どもの健康を願う母親のために 栄養の知識を



また、ADRAはリマ州にて、食に関する知識が乏しく、多種類の野菜を食べることが少ないために、栄養バランスが偏り、健康を害している方々の存在を知りました。栄養失調や貧血となるケースが多々見受けられました。無論、乳幼児にも影響を及ぼし、疫病や死亡につながってしまいます。

当地の栄養を改善するべく、「鉄分が豊富で安くできる料理」をテーマに、食育活動を行いました。正しい知識を得て、元気な子どもを育てたいと願うお母さん方へのサポートです。家庭菜園を造って、実践的な学びの場を設け、かつ戸別訪問しながら、啓発を続けております。